児塚遺跡

KOZUKA SITE

緊急発掘調査概報

伊那市教育委員会
伊那市建設部土木課

ご　あ　い　さ　つ

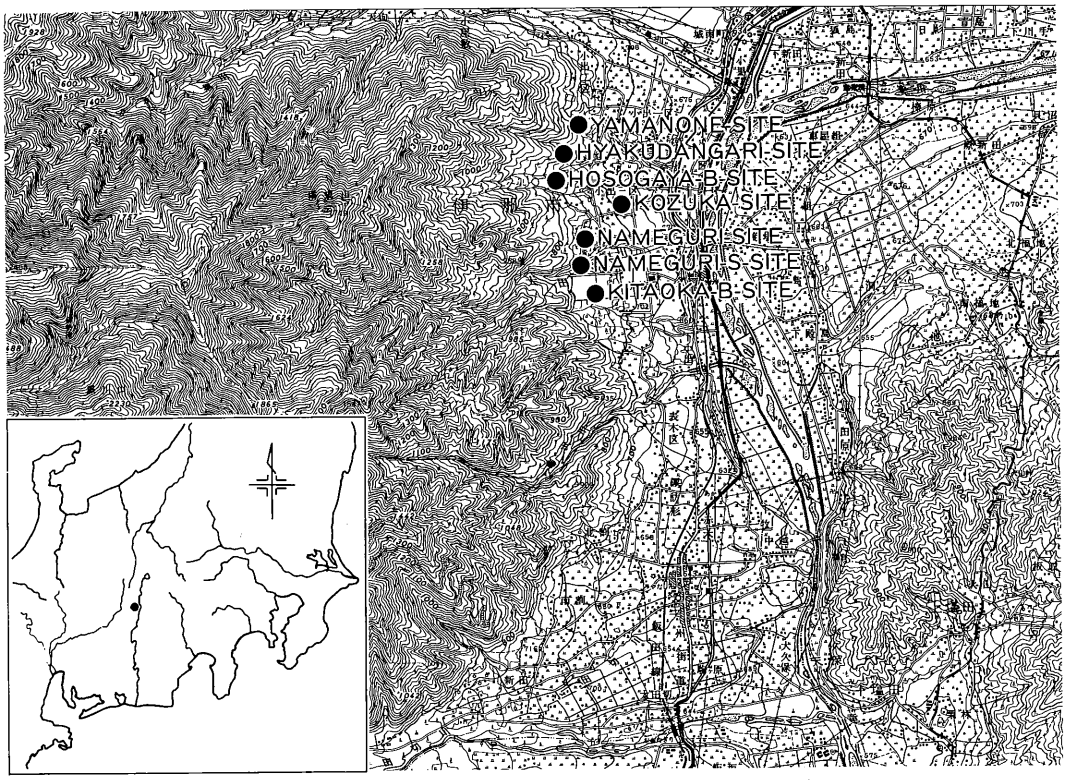
先人達は天竜川や周囲に取りまく山々を眺望しながら、竜西段丘面に縄文人としての息吹きを残しました。こうした生活跡は、西春近地区に周知されているものだけでも78カ所あります。多くは、中央高速道路、土地改良事業等の開発の波のなかで、すでに破壊されたり、また破壊されようとしています。
この、児塚遺跡も例外ではなく、大規模農道開通のために、50日に及ぶ長期の発掘調査が行なわれ、上伊那でも珍しい縄文早期の遺構、遺物が多数発見されました。

炎天下のもとに調査に努力された団長友野良一先生、調査員各位、作業員各位、調査の進行に多くの便宜をはかって下さった伊那市建設部土木課職員に深く感謝の意を表します。

昭和53年３月３日

伊那市教育委員会教育長　**伊　沢　一　雄**

1．児塚遺跡とその環境



遺跡分布図（児塚遺跡付近の早期の遺跡）（1：100,000）

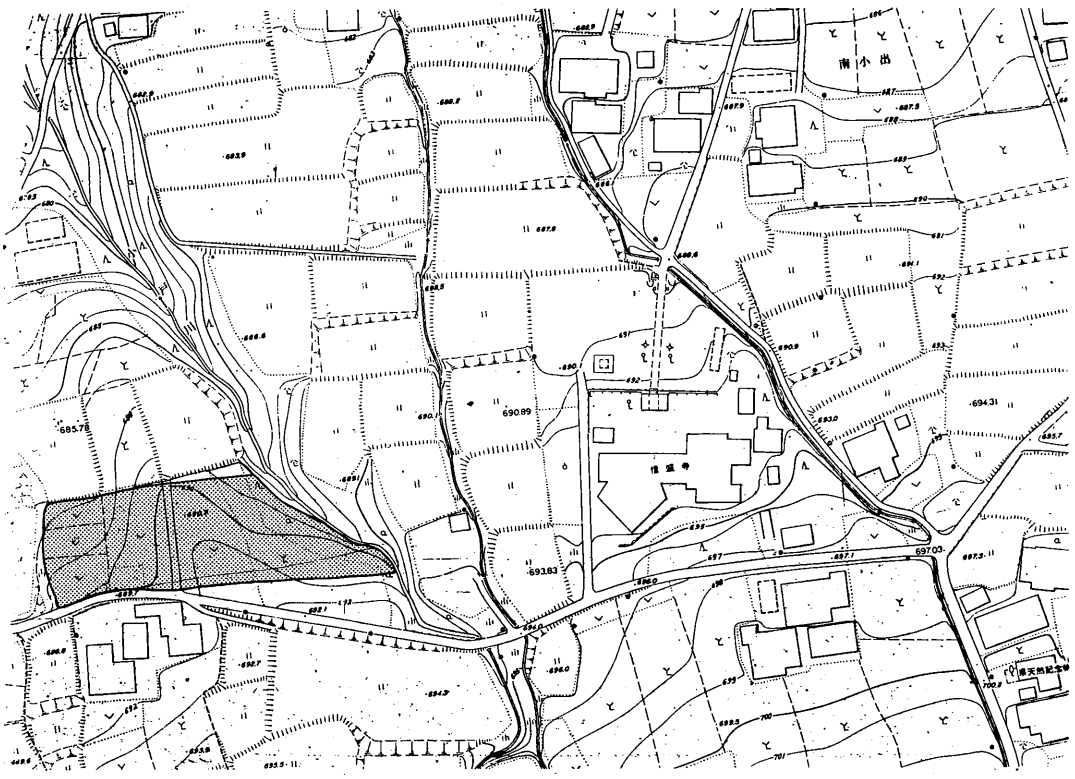
位置と地形

児塚遺跡は長野県伊那市西春近白沢に所在しており、天竜川の右岸、中央アルプスの前山である権現山の東山麓、東に細長く発達している扇状地のほぼ中央部に位置しており、北側は戸沢川と南側は犬田切川にはさまれ、またその間には小戸沢川が流れ、緩やかに傾斜する台地上にある。これらの河川の他にも小さな沢がいくつかあり、起伏にとんだ地形を形成している。

地層は、西山麓より供給されたホルンヘルス礫を多量に含んだ土砂の、たび重なる押出しによって複雑であり、その砂礫層の厚さは1 m以上にもおよんでいるが、調査区40列より南にはこのような礫層はなく、安定したソフトローム層が基盤となっている。

周辺の遺跡

本地域には大小さまざまな河川が西山ふところ深くに源をなし天竜川にそそいでおり、このような河川の近くに多くの遺跡が分布している。本遺跡の北側、小戸沢川の右岸には浜射場・宮の原両遺跡が、西側の上方には細ヶ谷A・B遺跡、山寺垣外遺跡、百駄刈遺跡等の遺跡が分布している。なお縄文時代早期後半の押型文土器を出土する遺跡としては、本遺跡の西上方小戸沢川右岸の細ヶ谷B遺跡と同じく戸沢川右岸の百駄刈遺跡が知られており、それぞれ昭和47年度に長野県中央道遺跡調査団によって調査がなされている。



遺　跡　の　地　形

2．遺跡の概要

遺跡の要約

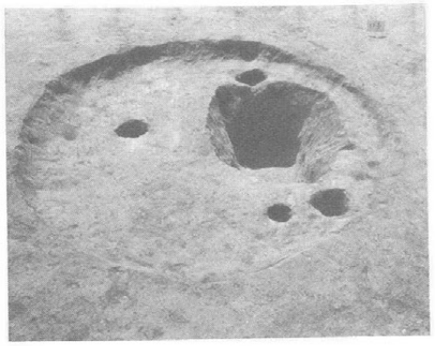
検出された遺構はすべて縄文時代早期のものと思われる。縄文時代早期の押型文土器と撚糸文、繊維土器を出土する遺構がほとんどであった。そのうちわけは、住居址１基、竪穴状遺構４基、土坑21基、ロームマウンド３基、集石址８基がある。

一方発掘された遺物は、縄文時代のものがほとんどで、土器、石器、剥片、焼礫、礫がある。土器は押型文土器が中心にその主体をしめ、撚糸文系、茅山式等の繊維土器もみられる。また中期、後期の土器片も微量ではあるが発見されている。石器には硬砂岩質のものが圧倒的に量的主体を占めており、円礫、礫器、横刃状剥片、磨石、打製石斧、石錘、石皿、その他の石器があり、黒耀石製のものが次に多く発見され、剥片石器が非常に多く、掻器、石鏃等も出土している。

発掘によって出土した遺物は以上のようであるが、他にごく微量ではあるが土師器（恐らく奈良時代～平安時代のある時期と思われる）が発見されている。

遺跡の層序

遺跡の立地する段丘上の土層の堆積はかなり複雑な様相を呈している。ある部分では西山麓からのたび重なる押出の土砂によって、ローム層の部分が切りとられたようになっている所もあり、耕作土下から礫層となっている部分も見うけられる。今回の調査区内では割合と安定している部分の調査であり耕作土下がソフトローム層となっており、この耕作土は薄く堆積しており、厚い部分で20㎝、薄い部分で10㎝であった。

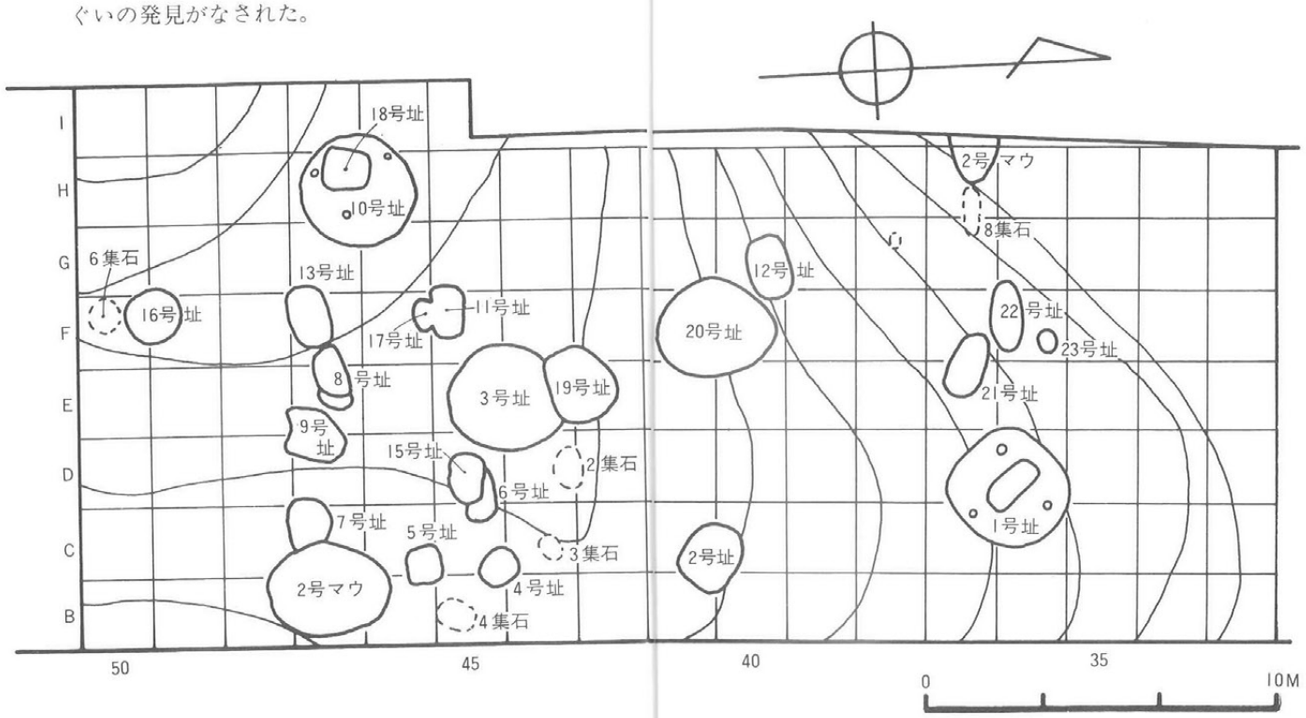


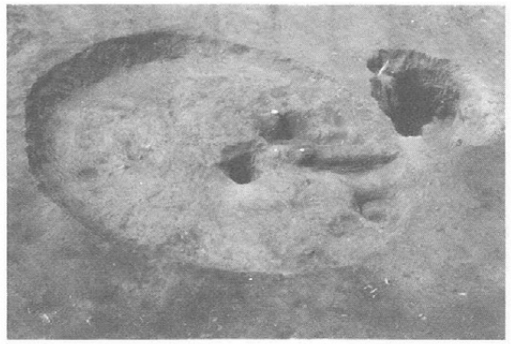
10・18号址

3・19号址

遺構平面分布図(1:200)

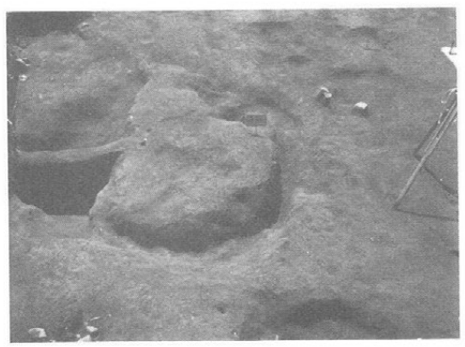
今回の調査地区内において最も多くの時間を費やした地区である。東および北に傾斜する地形でありとくに北側への傾斜は急である。50列より南側は遺物量はかなり少なくなり、内容も押型紋等は少なく土師器、須恵器のたぐいの発見がなされた。





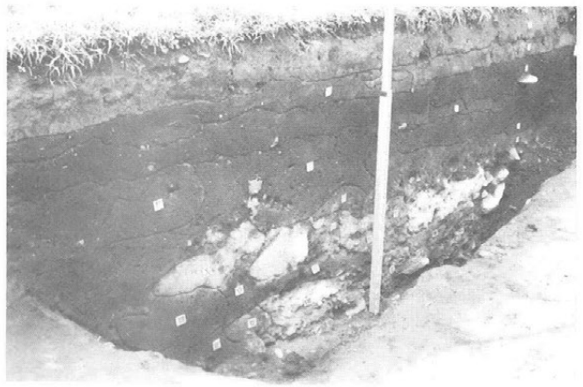
20号址

1号址覆土の状態



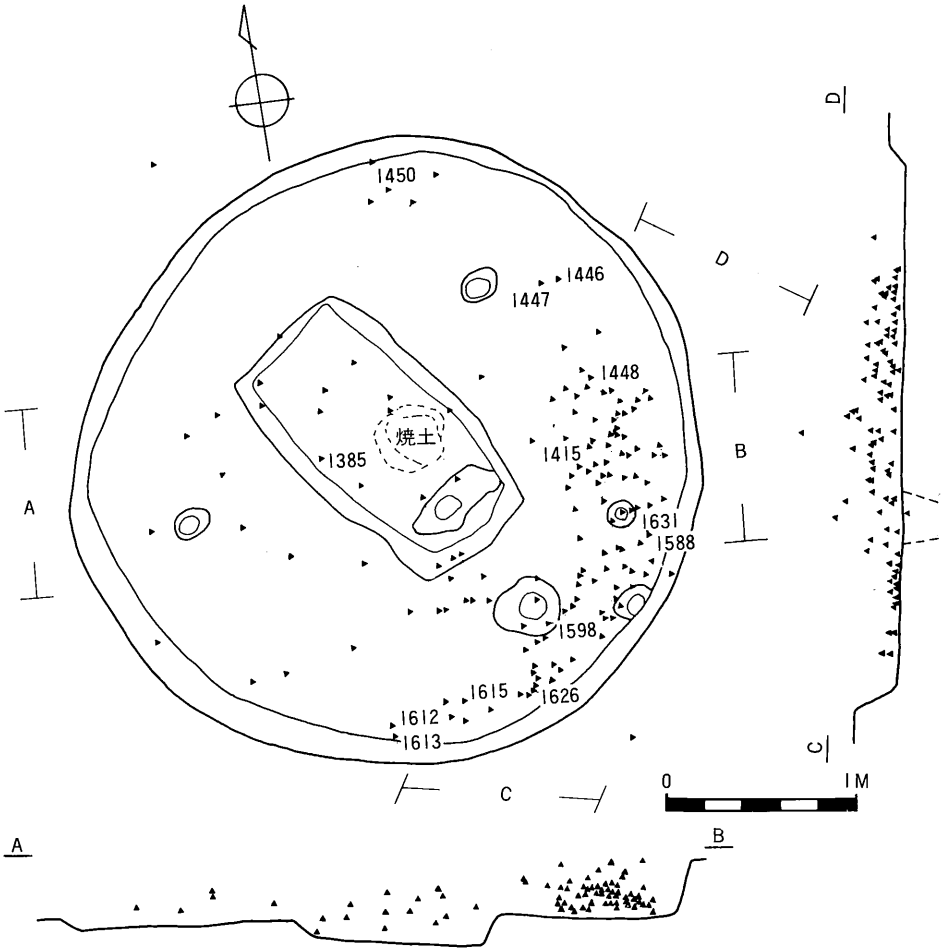
2号マウンド

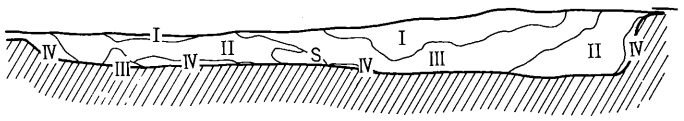
全　景



地　層

1号址





Ⅰ—黒色土（木炭粒含む）
Ⅱ—黒褐色土
Ⅲ—黒茶褐色土
Ⅳ—暗茶褐色土

1号址石器出土状態

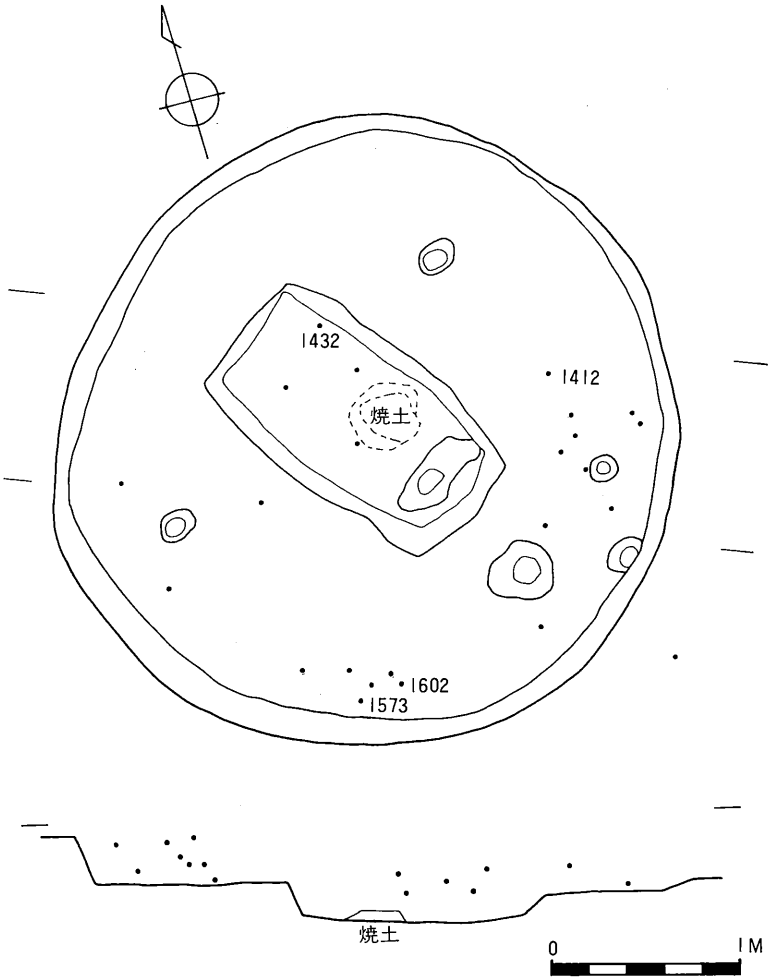
3．1号址及び他遺構の概要

今回の調査によって発見された遺構のうちで焼土をもった竪穴は1号址の1基のみであり、他の竪穴状の遺構からは焼土は検出されなかった。

1号址は平面プランはほぼ円形を呈し、その規模は南北軸が3.34ｍを東西軸が3.32ｍを測る。北に向ってかなり急激に傾斜する面に構築されており、柱穴状のピットは5本ありうち3本は主柱穴と考えられる。住居址の中央部には土坑があり、本址はこの土坑上に貼り床してあり、その部分は若

干底くさがっていた。この貼床された中央部に焼土が堆積しており、地床炉となっている。覆土の上層から中層にかけて本址のほぼ中央部にかなりの量の礫が集中していた。

本址出土遺物についてみると、土器の量は20数点の少量であるのに対して、石器の量はおびただしい量にのぼっており、そのほとんどすべてと言えるほどの量を黒耀石がしめている。その出土状態をみてみると住居址南東寄りに全体の80%近い量の石器が集中して出土しており、覆土の中層から床面直上にかけてまんべんなく出土している。なお床面直上において黒耀石のチップ出土がおびただしい量にのぼっている。このようなことから、覆土上層の遺物はともかくも、下層の遺物に関してみれば他から廃棄されたものとは考えにくく、石器製作途中にできたチップであり剥片であると考えたい。



1号址土器出土状態

この1号址に対して好対称をみせているのが10号址である。ほぼ円形の平面プランを呈し、その規模は3.30m×3.20mを測り、割合平坦な床面をもっている。18号址に切られておりその全体は明らかではないが、1号址に比べて石器の量は少ないが土器の量が多く注目される遺構である。

このほかに竪穴状遺構としては、3号、14号、20号址があり、3号址はやや長円形を呈する平面プランを呈し、長軸約3mと少々、短軸約3mを測る。20号址もほぼ長円形のプランを呈し、長軸約3.40m×短軸2.80mを測りかなり軟弱な床面をもっている。14号址はこれらの遺構に比べて規模は小さく2.10m×1.80mを測り3号址を切っている。土坑は落し穴状のものが多く、他にはローム面よりかなり上層の黒色土層に集石址が発見された。

No.は発掘No.

No.1448

No.1447

No.1588

No.1615

No.1446

No.1626

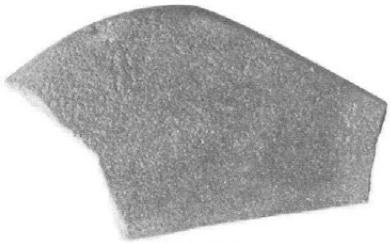
No.1415

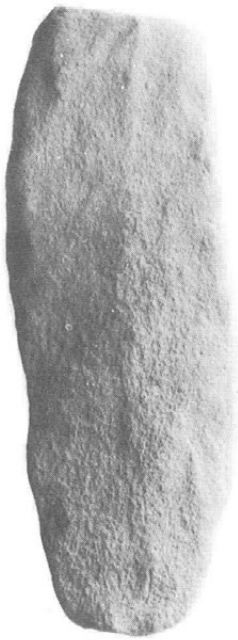
No.1631

No.1613

No.1612

No.1598


No.1385


No.1450

No.1175

No.1412

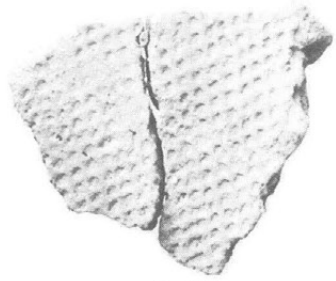
No.1573

No.1432

No.1470

No.1602

1号址出土遺物


No.1288

No.1285

No.1491

No.948

No.1299

No.1343

No.707

No.699

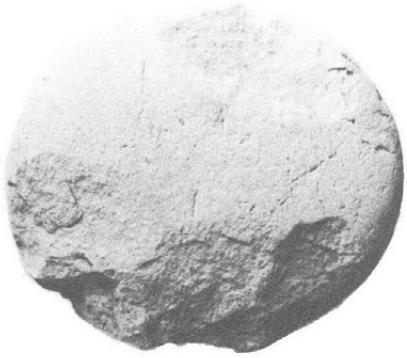
No.1177

No.527

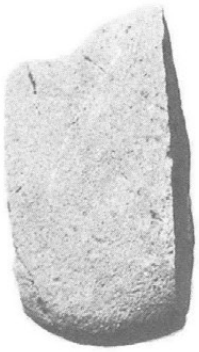
No.679

No.846

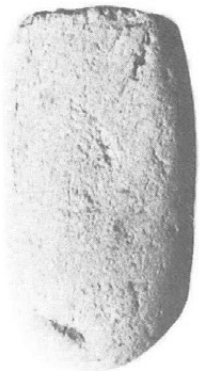
No.148


No.147

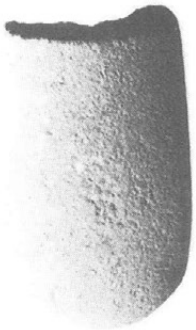
児塚遺跡出土遺物（1）



No.132

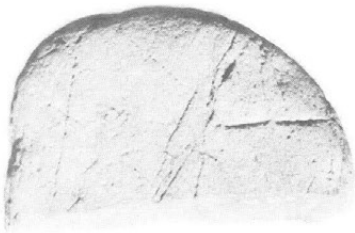


No.1292



No.750

No.846



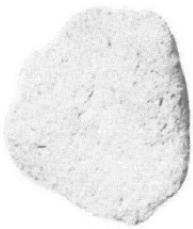
No.714

No.1376

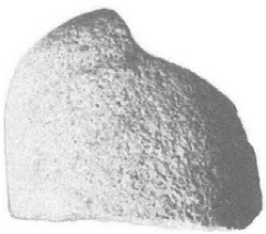
No.214

No.554

No.127

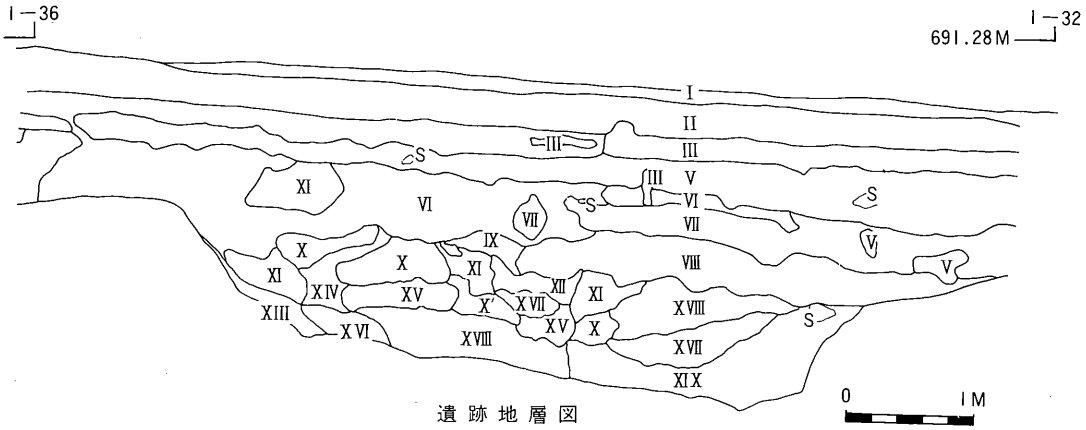


No.1545



No.1093

児塚遺跡出土遺物 (2)



遺 跡 地 層 図

Ⅰ—耕作土
Ⅱ—運積土
Ⅲ—砂質黄褐色土混入砂質暗褐色土—①
Ⅳ—Ⅲ—②（①より黒色土が強い）
Ⅴ—真黒色土
Ⅵ—褐色が強い黒色土。Ⅵ'—褐色がより強い。
Ⅶ—黒色土
Ⅷ—砂質黄褐色土混入砂質黒褐色土（小礫混入）
Ⅸ—砂質黄褐色土混入砂質黒色土
Ⅹ—白色砂質土混入黄色砂質土。Ⅹ'—砂質黒色土混入
Ⅺ —砂質黄白色土混入暗黒褐色土
Ⅻ —黄緑色砂質土
XIII —真黒色砂質土。XⅢ'—褐色が強い。
XIV —XI＋砂質土
XV —X＋砂質土
XVI —XI＋砂質土
XVII —礫層＋暗褐色土
XVIII —白色礫層
XIX —黄褐色礫層

5．ま と め

今回の調査で目をひくのは硬砂岩等の石器の量の多いことである。このような石器が何故にこのような状態で出土したのか、大きな問題点である。この硬砂岩質のものをみると、円礫、円礫を半分に割ったもの、円礫から剝片をとったもの、剝片、と一様のものは出土しており、かなり小さな剝片等も出土している。このような視点から考えると、石器を廃棄した場所という考えかたは成り立たずに、石器を製作した場所と考える方が妥当と思われるが、周辺の遺跡等の関連も考慮せねばならず、今後に検討をしてゆきたい。

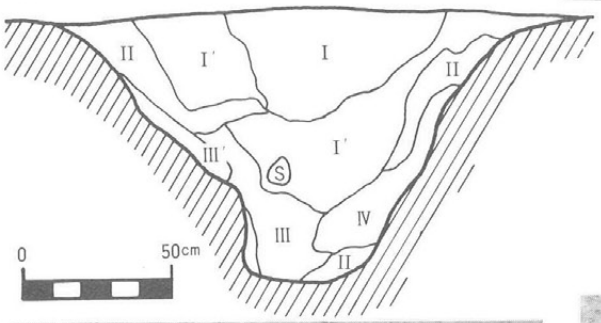
遺構についてみると、それぞれから出土する土器に押型文土器があり、この時期の遺構と考えることが可能である。土拡についても２号址等から押型文土器が出土しており、他の土拡もほぼこの時期のものと考えてよいと思われる。なお土拡内に石皿が入っているものが１基あり、注目したい。

本遺跡の西上方には細ヶ谷Ｂ遺跡と百駄刈遺跡があり、それぞれ多量の押型文土器を出土した遺跡である。このように本遺跡の性格を考えるうえに重要な遺跡であり、移動生活・居住領域等々の問題を考えあわせ今後検討してゆきたい。

なお、石器の組成から遺跡の性格をうかがうと、石鏃、石匙等の狩猟具および解体具の出土はきわめて少なく、また石皿、磨石等の食料加工具の出土も少ない。このようななかで、円礫、円礫を半分に割ったもの、等の使途不明の石器の量が非常に多く、このへんの解明が本遺跡の性格の解明につながると思われる。

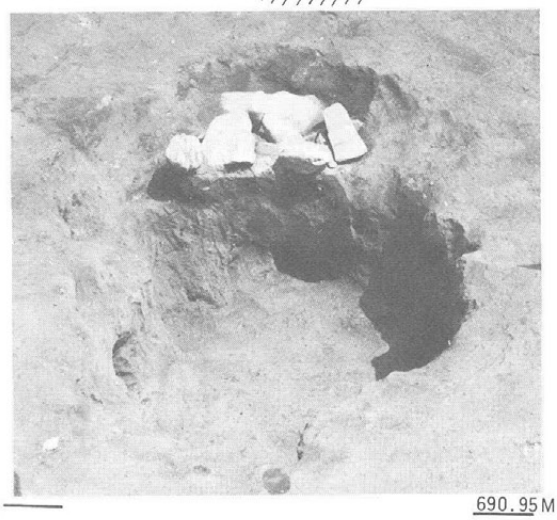
← 2号址と2号址セクション　　↑ 4号址

690.70M

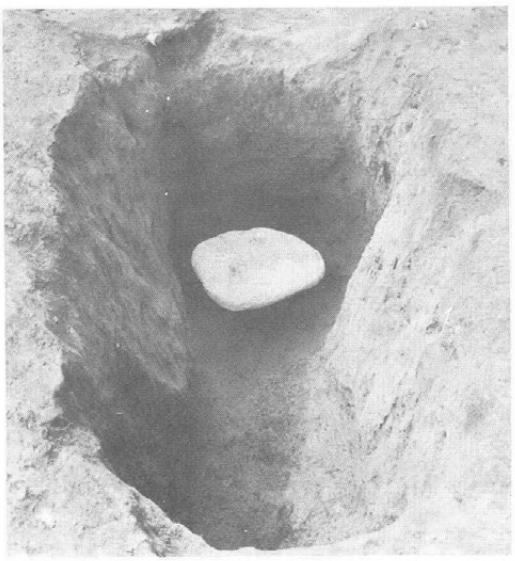


2号址セクション

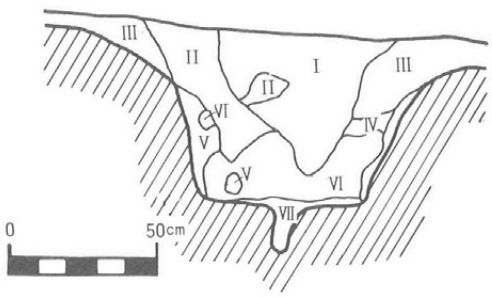
Ⅰ—真黒色土
Ⅰ'—暗黒褐色土混入真黒色土
Ⅱ—暗黒褐色土
Ⅲ—暗黒褐色土混入黒色土
Ⅲ'—Ⅲより褐色が強い
Ⅳ—暗褐色土



690.95M

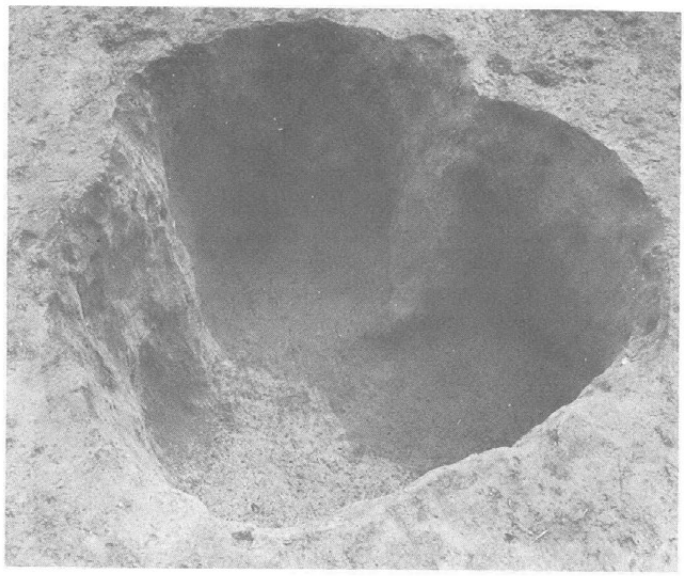


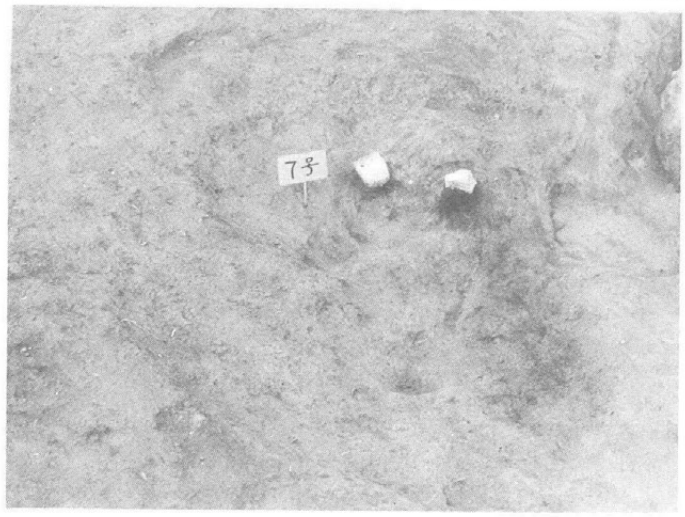
← 6号・15号址と4号址セクション　　↑ 13号址



Ⅰ—黒色土
Ⅱ—暗黒褐色土混入黒色土
Ⅲ—暗褐色土
Ⅳ—茶褐色土混入暗褐色土
Ⅴ—黒色土粒混入茶褐色土
Ⅵ—茶褐色土粒混入黒色土
Ⅶ—Ⅵ＋ローム

上　11号・17号址
中　9号址
下　7号址





住居址・竪穴状遺構・土坑の規模一覧

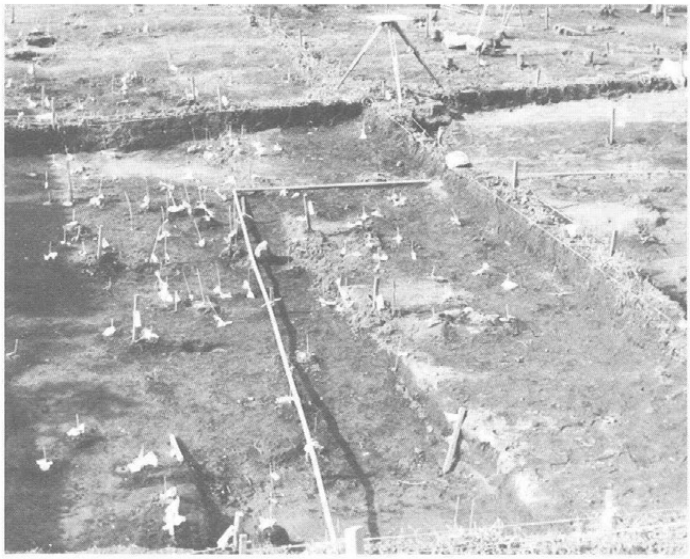
1号址—330cm×328cm 深さ25cm
2号址—187cm×143cm 〃 95cm
3号址—310cm×300cm 〃 16cm
4号址—122cm×105cm 〃 57cm
5号址—106cm×106cm 〃 21cm
6号址—125cm× ? 〃 25cm
7号址—131cm×125cm 〃 20cm
8号址—170cm×113cm 〃 17cm
9号址—170cm×129cm 〃 23cm
10号址—338cm×322cm 〃 19cm
11号址—102cm× ? 〃 84cm
12号址—157cm×157cm 〃 95cm
13号址—197cm×121cm 〃 93cm
14号址—200cm×196cm 〃 15cm
15号址—148cm×124cm 〃 69cm
16号址—150cm×156cm 〃 105cm
17号址—157cm× ? cm 〃 83cm
18号址—150cm×127cm 〃 69cm
19号址—157cm×139cm 〃 28cm
20号址—342cm×307cm 〃 33cm
21号址—196cm×117cm 〃 56cm
22号址—194cm×98cm 深さ71cm
23号址—90cm×81cm 深さ20cm

グリット設定

10号址調査状況

遺物出土状況

スナップ (1)　　耕土はぎ



遺物出土状態

Ⅰ号址調査風景

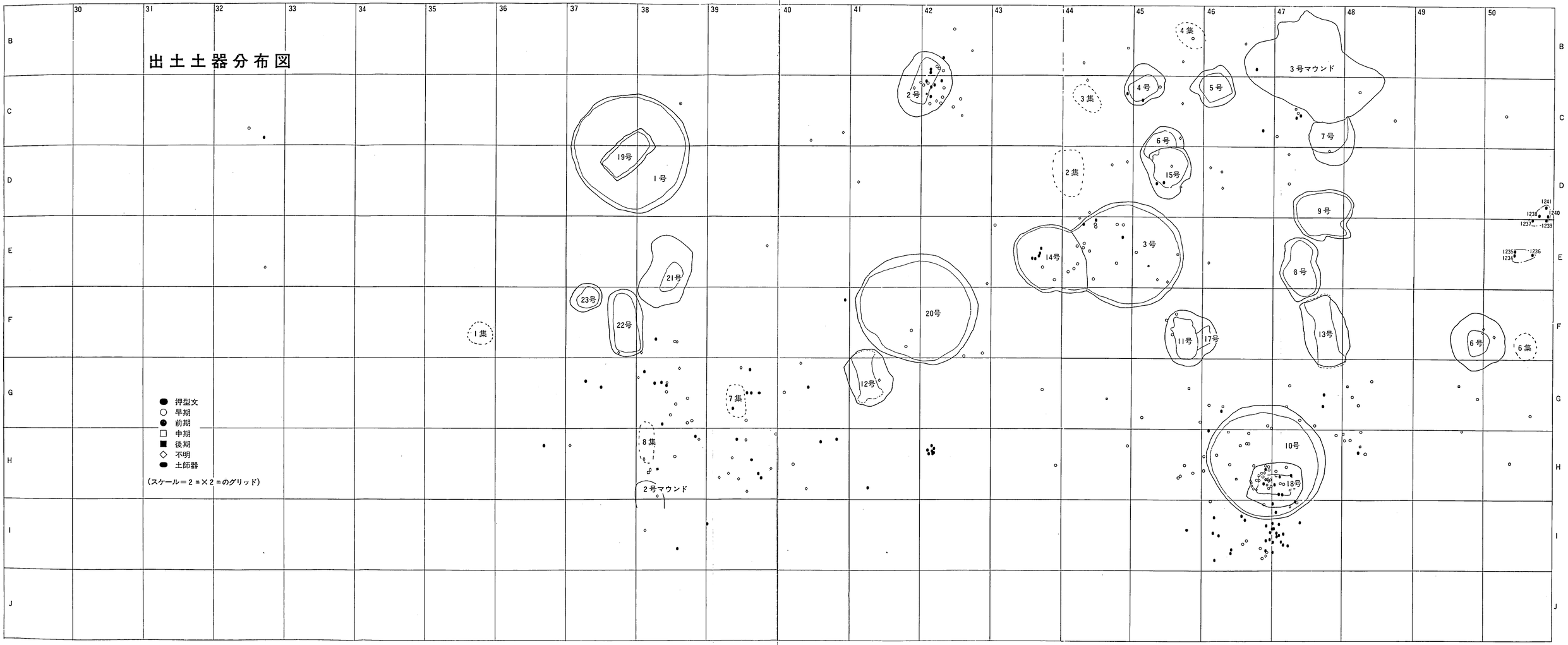
Ⅰ号址調査風景

スナップ (2)

出土遺物一覧表

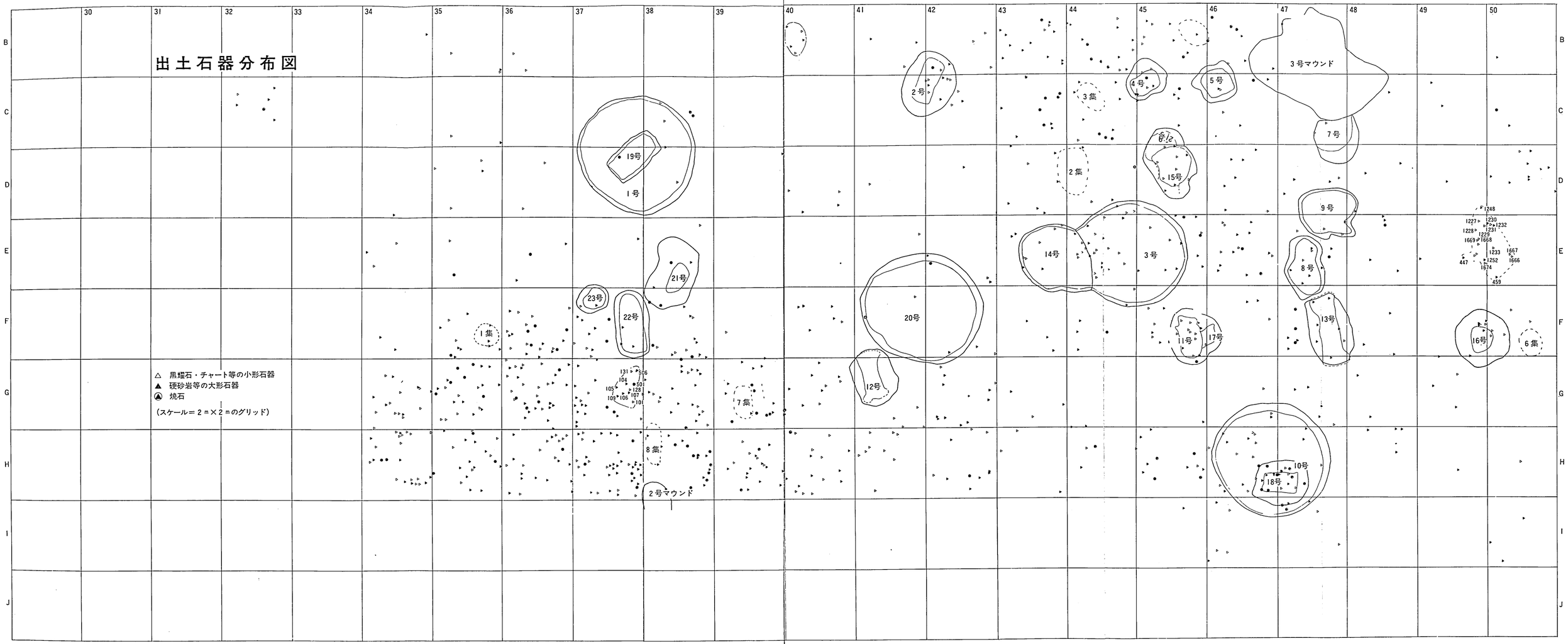
整理№	発掘№	グリット	標高(m)	石質	石器種類	土器 内訳	土器 型式or種類
1	1666	E－50	690.99	黒耀石	剝　片		
2	1667	E－50	690.99	〃	〃		
3	1230	E－50	691.12	硬砂岩	〃		
4	1231	E－50	691.14	黒耀石	〃		
5	1232	E－50	691.02	硬砂岩	〃		
6	1233	E－50	691.06	黒耀石	〃		
7	459	E－50	691.10	硬砂岩	円礫を半分に割ったもの		
8	1248	D－48	691.02	〃	剝　片		
9	1229	E－49	691.12	黒耀石	〃		
10	1227	E－49	691.06	〃	〃		
11	1228	E－49	691.11	〃	〃		
12	1668	E－49	690.98	〃	〃		
13	1669	E－49	690.98	〃	〃		
14	1252	E－49	691.11	〃	〃		
15	1674	E－49	691.06	〃	〃		
16	447	E－49	691.12	硬砂岩	〃		
17	506	G－37	689.75	〃	円　礫		
18	501	G－37	689.74		焼　石		
19	131	G－37	689.76	黒耀石	剝　片		
20	104	G－37	689.79	?	打製石斧		
21	105	G－37	689.77	硬砂岩	円礫の半分割れ		
22	109	G－37	689.78	〃	敲　器		
23	106	G－37	689.74	〃	礫　器		
24	107	G－37	689.70	〃	円　礫		
25	128	G－37	689.70	?	?		
26	101	G－37	689.10	黒耀石	剝　片		
27	242	B－40	690.29	硬砂岩	円礫の半分割れ		
28	243	B－40	690.29	黒耀石	剝　片		
29	244	B－40	690.33	?	打製石斧		
30	245	B－39	690.29	硬砂岩	円礫の半分割れ		
31	248	B－39	690.25	黒耀石	剝片石器		
32	1234	E－50	690.88			押型文	格子目
33	1235	E－50	690.88			〃	〃
34	1236	E－50	690.88			〃	〃
35	1237	E－50	690.96			〃	〃
36	1238	D－50	690.96			〃	〃
37	1239	E－50	690.95			〃	〃
38	1240	D－50	690.93			〃	〃
39	1241	D－50	690.93			〃	〃

出土土器分布図


30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
B
C
D
E
F
G
H
I
J
19号
1号
21号
23号
22号
1集
7集
8集
2号マウンド
2号
4集
3集
4号
5号
3号マウンド
7号
6号
15号
2集
9号
14号
3号
8号
20号
11号
17号
13号
12号
6号
6集
10号
18号
1241
1238
1240
1237
1239
1235
1236
1234
押型文
早期
前期
中期
後期
不明
土師器
(スケール＝2ｍ×2ｍのグリッド)

出土石器分布図

△ 黒耀石・チャート等の小形石器
▲ 硬砂岩等の大形石器
◉ 焼石
(スケール＝２ｍ×２ｍのグリッド)



児塚遺跡発掘調査会

〔調査委員会〕

委員長	伊沢一雄	伊那市教育委員会教育長	
副委員長	福沢総一郎	伊那市文化財審議委員会委員長	
委員	赤羽映士	伊那市教育委員長	
調査事務局	竹松英夫	伊那市教育委員会社会教育課長	
〃	有賀武	〃	課長補佐
〃	米山博章	〃	係長
〃	三沢真知子	〃	主事

〔発掘調査団〕

団長	友野良一	日本考古学協会会員
副団長	根津清志	長野県考古学会会員
〃	御子柴泰正	〃
調査員	飯塚政美	〃
〃	田畑辰雄	〃
〃	福沢幸一	〃
〃	荻原茂	〃
〃	小木曽清	宮田村文化財審議委員

〔発掘協力者〕

平沢公夫・平沢平治・唐木淳・唐木馨
北原清司・小出百合子・酒井とし子・戸苅千鶴子
辰野みさ子・浦野節子・原修一・平沢善雄
春日松巳・平沢八千子・小松英雄・宮下坦司
東野広次（順不同）

児塚遺跡

〜緊急発掘調査概報〜

昭和53年3月4日　印刷
昭和53年3月6日　発行

発行所　長野県伊那市教育委員会

印刷所　伊那市 小松総合印刷㈱